

アウグスターレースとしての皇帝解放奴隷

—関係碑文を手がかりに—

山 本 晴 樹

(一)

アウグスターレースが皇帝礼拝のための祭儀の重要な担い手であるにもかかわらず、彼らとその対象である皇帝とのつながりは必ずしも明確にされてきたわけではなかった。というのも、両者の結びつきを直接的に示す史料がきわめて限られていたからである。その解明の手がかりを探るのがこれまでの研究の課題であった⁽¹⁾。

このような状況のなかであって、一つの探求の糸口として考えられるのが、アウグスターレースと皇帝解放奴隷との関係である。アウグスターレースの多くが解放奴隷によって占められているという事実を考えると、当然皇帝解放奴隷が問題にされざるをえないからである。確かに、これまでの研究においては、この観点は全くなかったとはいえないかったが、しかしまとまった考察をされることはなかったように思われる⁽²⁾。ここでは、関係碑文を手がかりとして、皇帝解放奴隷のなかでアウグスターレースであるとみなされるものを抽出し、それらを検討することによって、皇帝とアウグスターレースとの関係を解明する道筋を探りたい。

皇帝解放奴隷の研究は欧米において1960年代末以降飛躍的發展をみた。すなわち、西ドイツ（当時）のシャントレン（H. Chantraine）、イギリスのウィーヴァー（P.R.C. Weaver）、フランスのブルヴェール（G. Boulvert）のそれである⁽³⁾。彼らは皇帝の奴隷および解放奴隷の機能をそのプロソポグラフィックな研究によって分析した。これらの研究は帝政期における皇帝権の実態を明らかにするうえで、きわめて大きな成果をもたらした。しかしながら、皇帝解放奴隷のローマ皇帝礼拝における役割についてはあまり立ち入った分析はおこなわれなかったように思われる。従って、ここでは皇帝解放奴隷であって、アウグスターレース職に就いている事例を検討することにする。その際碑文史料を手がかりにするが、幸い前述の先行研究によって関係碑文は収集されているので、それを参照することにした。またそれ以後新たに発見された碑文も加えて検討したい。現在のところで収集できる関連碑文を挙げると次のようになる⁽⁴⁾。

- [1] CIL III, 1792 (Narona, ダルマティア; トラヤヌス期) M. Ulpius Aug. l. Nedymus⁽⁵⁾
- [2] CIL III, 2093 (Salonae, ダルマティア; 69-c.120年) T.Flavius Aug. l. Bassus⁽⁶⁾
- [3] CIL III, 8263 (Ratiaria, モエシア; 117-c.150年) P. Aelius Aug. l. Aprio⁽⁷⁾
- [4] CIL V, 987 (Aquileia, 北イタリア; 時期不明) T. F[l]a[v]ius Aug. l. Crescens⁽⁸⁾
- [5] CIL VI, 29681 (出土地不明、23年以前) C.Iulius divi Augusti l. Sosthenes⁽⁹⁾
- [6] CIL VI, 29736 (出土地不明; 98-c.160年) M.Ulpius Augustorum lib. Granianus⁽¹⁰⁾
- [7] CIL IX, 344 (Lanuvium; マルクス・アウレリウス期) [A]elius Aug.lib. [Aur]elius Apolaustus⁽¹¹⁾
- [8] CIL XI, 5756 (Sentinum, ウンブリア; 時期不明) Heraclida Cassian(us) Caesaris l.⁽¹²⁾
- [9] CIL XI, 3200 (Nepet, エトルリア; 前12/13年) Philippus Augusti libert.⁽¹³⁾
- [10] CIL XI, 3805 (Veii, エトルリア; 26年) C. Iulius divi Augusti l. Gelos⁽¹⁴⁾
- [11] CIL XIV, 2977 (Praeneste; 198-211年) M. Aurelius Aug. l. Agilius Septentrio⁽¹⁵⁾

- [12] CIL XIV,4254 (Tibur, ラティウム ; 199年) L. Aurelius Augg. l. Apolaustus ⁽¹⁶⁾
 [13] AE 1902, 78 (Lavinium ; 41-c.90年) T. Claudius Aug. l. Capito Diodorianus ⁽¹⁷⁾
 [14] AE 1914, 261 (Antiochia, ピシディア ; クラウディウス / ネロ期) Ti. Claudiu[s]
 Epinicus ⁽¹⁸⁾
 [15] AE 1979, 386 (Lindum, ブリタニア ; 時期不明) ...]annus [... Aug. l. ⁽¹⁹⁾
 [16] AE 1988, 176 (Ostia, ラティウム ; 時期不明) Aug. l. P. Aelius Agathemer ⁽²⁰⁾

現在までのところで、該当する碑文は上記の16例に過ぎない。きわめて限られた数であるが、この数の少なさはまたひとつの意味をもっている。すなわち、アウグスターレースとしての皇帝解放奴隷という存在がまれにしか見られない現象であるということである。われわれは、この限られた事例から浮かび上がるものを見てみたい。

(二)

1. まず、関係碑文の年代の点からみると以下のようなになる。

a) ユリウス・クラウディウス朝

- [9] CIL XI, 3200 (Nepet, エトルリア ; 前12 / 13年) Philippus Augusti libert.
 [5] CIL VI,29681 (出土地不明、23年以前) C. Iulius divi Augusti l. Sosthenes
 [10] CIL XI,3805 (Veii, エトルリア ; 26年) C. Iulius divi Augusti l. Gelos
 [13] AE 1902, 78 (Lavinium ; クラウディウス / ネロ期) T. Claudius Aug. l. Capito
 Diodorianus
 [14] AE 1914, 261 (Antiochia, ピシディア ; クラウディウス / ネロ期) Ti. Claudiu[s]
 Epinicus

b) フラウィウス朝あるいは五賢帝時代

- [2] CIL III,2093 (Salonae, ダルマティア ; 69-c. 120年) T. Flavius Aug. l. Bassus
 [4] CIL V, 987 (Aquileia, ガリア・キサルピナ ; 69-c. 160年) T. F[l]a[v]ius Aug. l.
 Crescens

c) 五賢帝時代

- [6] CIL VI,29736 (出土地不明 ; 98-c. 160年) M.Ulpius Augustorum lib. Granianus
 [1] CIL III, 1792 (Narona, ダルマティア ; トラヤヌス期) M.Ulpius Aug. l. Nedymus
 [3] CIL III, 8263 (Ratiaria, モエシア ; 117-c. 150年) P. Aelius Aug. l. Aprio
 [7] CIL IX,344 (Lanuvium ; マルクス・アウレリウス期) [A]elius Aug.lib.[Aur]elius
 Apolaustus

d) セウエルス朝

- [12] CIL XIV,4254 (Tibur, ラティウム ; 199年) L. Aurelius Augg. l. Apolaustus
 [11] CIL XIV, 2977 (Praeneste ; 198-211) M. Aurelius Aug. l. Agilius Septentrio

e) 年代不明

- [8] CIL XI,5756 (Sentinum, ウンブリア) Heraclida Cassian(us) Caesaris lib.
 [15] AE 1979, 386 (Lindum, ブリタニア) ...]annus [... Aug. l.
 [16] AE 1988, 176 (Ostia, ラティウム) Aug. l. P. Aelius Agathemer

これを表に示すと以下のようになる。

| | |
|-------------------|---|
| ユリウス・クラウディウス朝期 | 5 |
| フラウィウス朝期あるいは五賢帝時代 | 2 |
| 五賢帝時代 | 4 |
| セウェルス朝期 | 2 |
| 年代不明 | 3 |

年代不明のものを除くと、初出はアウグストゥス存命中の前12/13年であり、最末年はカラカラ帝初年の211年である。すなわち前一世紀末期から三世紀初頭にわたっている。更にみていくと、このなかでは二つの中心がみつめられる。それはアウグストゥスの家系であるユリウス・クラウディウス家の時代と五賢帝の時代である。両時代の間にあるフラウィウス家の時代にはやや停滞現象をみせている。そして3世紀のセウェルス朝以降は碑文に現れなくなる。3世紀以降の減少傾向はアウグスターレースのそれと一致しているのが、容易に理解されるが、フラウィウス朝期のそれは何らかの問題を含んでいるように思われる（後述）。

2. 次に碑文の出土地という点からみてみよう。

a) イタリア

- [9] CIL XI, 3200 (Nepet, ラティウム; 前12/13年)
- [10] CIL XI, 3805 (Veii, ラティウム; 26年)
- [13] AE 1902, 78 (Lavinium, ラティウム; クラウディウス/ネロ期)
- [7] CIL IX, 344 (Lanuvium, ラティウム; マルクス・アウレリウス期)
- [11] CIL XIV, 2977 (Praeneste, ラティウム; 198-211年)
- [12] CIL XIV, 4254 (Tibur, ラティウム; 199年)
- [16] AE 1988, 176 (Ostia, ラティウム; 年代不明)
- [8] CIL XI, 5756 (Sentinum, ウンブリア; 年代不明)
- [4] CIL V, 987 (Aquileia, ガリア・キサルピナ; 年代不明)

b) 出土地不明（ただし出土地は特定できないが、少なくともイタリア内）

- [5] CIL VI, 29681 (出土地不明、23年以前)
- [6] CIL VI, 29736 (出土地不明; 98-c.160年)

c) 属州

- [14] AE 1914, 261 (Antiochia, ピシディア; クラウディウス/ネロ期)
- [2] CIL III, 2093 (Salonae, ダルマティア; 69-c.120年)
- [1] CIL III, 1792 (Narona, ダルマティア; トラヤヌス期)
- [3] CIL III, 8263 (Ratiaria, モエシア; 117-c.150年)
- [15] AE 1979, 386 (Lindum, ブリタニア; 年代不明)

これを表にしてみると以下のようなになる。

| | |
|-----------|----|
| イタリア | 11 |
| ラティウム | 7 |
| ウンブリア | 1 |
| ガリア・キサルピナ | 1 |
| 不明 | 2 |
| 属州 | 5 |
| ピシディア | 1 |
| ダルマティア | 2 |
| モエシア | 1 |
| ブリタニア | 1 |

これをみると、出土地には二つの傾向が認められる。一方はイタリアの主に中央部ラティウムに位置する土地と、他方はピシディア（小アジア）を別としてダルマティア（現クロアチア）、モエシア（現ブルガリア）、ブリタニア（現イギリス）というような辺境の諸属州の土地である。ここには大略、ローマ帝国の中核部分と辺境地という二局分解が現れている⁽²⁾。通例アウグスターレースはイタリアおよび西部属州の、いわゆる「ローマ化」の進んだ元老院属州の、とりわけ都市しかも地中海沿岸部の大都市に多くみられる現象であるので、このような二局分解はきわめて特徴的である。

3. 皇帝解放奴隷が就いているアウグスターレースの名称という点からみてみよう。

a) se(x)virの場合

| | | |
|-------------------|-----------------------------|--------|
| [5] CIL VI, 29681 | (出土地不明, 23年以前) | sevir |
| [1] CIL III, 1792 | (Narona, ダルマティア; トラヤヌス期) | sevir |
| [15] AE 1979, 386 | (Lindum, ブリタニア; 年代不明) | sevir |
| [4] CIL V, 987 | (Aquileia, ガリア・キサルピナ; 年代不明) | sexvir |
| [8] CIL XI, 5756 | (Sentinum, ウンブリア; 年代不明) | sexvir |

b) Augustalisの場合

| | | |
|-------------------|------------------------------|---------------------------|
| [10] CIL XI, 3805 | (Veii, エトルリア; 26年) | Augustalis |
| [2] CIL III, 2093 | (Salonae, ダルマティア; 69-c.120年) | Augustalis |
| [3] CIL III, 8263 | (Ratiaria, モエシア; 117-c.150年) | Augustalis col. Ratiariae |

c) sevir Augustalis (= sev. Aug.) の場合

| | | |
|--------------------|---------------------------------|--------------------------|
| [13] AE 1902, 78 | (Lavinium, ラティウム; クラウディウス/ネロ期) | sev. Aug. |
| [6] CIL VI, 29736 | (出土地不明; 98-c. 160年) | sev. Aug. |
| [11] CIL XIV, 2977 | (Praeneste, ラティウム; 198-211年) | sev. Aug. |
| [14] AE 1914, 261 | (Antiochia, ピシディア; クラウディウス/ネロ期) | sev. Aug. col. Caesareae |

d) その他

| | | |
|--------------------|------------------------------|------------------------------|
| [9] CIL XI, 3200 | (Nepet, ラティウム; 前12/13年) | magister Augustalis primus |
| [7] CIL IX, 344 | (Lanuvium, ラティウム; M.アウレリウス期) | Augustalium quinquennalis |
| [12] CIL XIV, 4254 | (Tibur, ラティウム; 199年) | Herculanus Augustalis |
| [16] AE 1988, 176 | (Ostia, ラティウム; 年代不明) | sev. Aug. idem quinquennalis |

ここでみるかぎり、se(x)vir, Augustalis, sevir Augustalisというアウグスターレースの一般的名称が圧倒的に多く現れている。例外的に、アウグスターレースの初期の形態である magister Augustalis や、後の形態と思われる quinquennalis を伴う場合、そして二世期末にヘラクレス信仰と結びついたアウグスターレース Herculanus Augstalis が現れているが、いずれもイタリアのラティウムにのみ限られているので、これは特殊な場合であると思われる⁽²²⁾。

4. 当該碑文の奉献者と被奉献者の関係は次のようになる。

I. 皇帝解放奴隷が奉献者で被奉献者が以下の場合

a) 皇帝

[9] CIL XI, 3200 (Nepet ; 前12/13年) アウグストゥス

b) 神

[13] AE 1902, 78 (Lavinium ; クラウディウス/ネロ期) ユーノー

[1] CIL III, 1792 (Narona, ダルマティア ; トラヤヌス期) メルクリウス

c) 家族等

[14] AE 1914, 261 (Antiochia, ピシディア ; クラウディウス/ネロ期) 両親

[16] AE 1988, 176 (Ostia ; 時期不明) 自分自身と妻?

[4] CIL V, 987 (Aquileia ; 時期不明) 自分自身と妻、娘

[6] CIL VI, 29736 (出土地不明 ; 98-c.160年) 解放奴隷

e) 不明

[5] CIL VI, 29681 (都市不明、23年以前)

[15] AE 1979, 386 (Lindum, ブリタニア ; 時期不明)

[8] CIL XI, 5756 (Sentinum ; 時期不明)

II. 皇帝解放奴隷が被奉献者で奉献者が以下の場合

a. 都市およびその構成員

[10] CIL XI, 3805 (Veii ; 26年) Veiiのcentumviri

[7] CIL IX, 344 (Lanuvium ; マルクス・アウレリウス期) コローニア・カヌシウム

[11] CIL XIV, 2977 (Praeneste ; 198-211年) プラエネステの res publica

b. 家族

[2] CIL III, 2093 (Salonae, ダルマティア ; 69-c.120年) 妻と解放奴隷

[3] CIL III, 8263 (Ratiaria, モエシア ; 117-c.150年) 妻?

c. 不明

[12] CIL XIV, 4254 (Tibur, ラティウム ; 199年)

ここで注目されるのは最初の事例 ([9]) である。これはわれわれが取り上げた碑文のうち、最初期のものであり、皇帝解放奴隷 Philippus なるものが magister Augustalis primus として、他の3名とともに皇帝アウグストゥスへ奉献をおこなっている。これはここで取り上げた碑文のうち、皇帝解放奴隷が皇帝との直接的なつながりを示す唯一の事例である。その後、皇帝との直接的なつながりを示す碑文は二度と現れてはいない。これはアウグスターレースと皇帝との関係が人格的なものから、非人格的なもの、超越的なものに変化していったことを示すもののように思われる。

5. アウグスターレースと他の役職との関係は次のとおりである。

I. 単独の場合

- [9] CIL XI, 3200 (Nepet ; 前12年) magister augustal(is) prim(us)
[5] CIL VI, 29681 (出土地不明、23年以前) sevir
[10] CIL XI 3805 (Veii, 26年) Augustalis
[4] CIL V, 987 (Aquileia, 69-c.120年) (sex)vir...
[2] CIL III, 2093 (Salonae ; 69-c.120年) Augstalis
[6] CIL VI, 29736 (出土地不明 ; 98-c.160年) sevir Augustalis
[3] CIL III, 8263 (Ratiaria, ハドリアヌス期) Aug(ustalis) col(oniae) Rat(iariae)
[13] AE 1902, 78 (Lavinium, 年代不明) sevir Aug(ustalis)
[15] AE 1979, 386 (Lindum, 年代不明) sevir Augustalis

II. 他の役職を兼ねる場合

- [1] CIL III, 1792 (Narona, ダルマティア ; トラヤヌス期)
(sex)viri ; m(agister) M(ercurialis)
アウグスターレース ; メルクリウスに捧げられた商業組合の長
- [8] CIL XI, 5756 (Sentinum, ウンブリア ; 年代不明)
librarius ; sexvir
書記 ; アウグスターレース
- [16] AE 1988, 176 (Ostia ; 年代不明)
sevir aug(ustalis) idem q(uin)q(uennalis)
アウグスターレース ; 五年毎のアウグスターレース
- [14] AE 1914, 261 (Antiochia, ピシディア ; クラウディウス期 / ネロ期)
proc(urator) ; et praegustator ; et a secretis Aug(usti) ; (sex)vir Aug(ustalis)
c(oloniae) C(aesareae)
監督官 ; 試食係 ; 皇帝秘書 ; コローニア・カエサレアのアウグスターレース
- [7] CIL IX, 344 (Lanuvium, ラティウム ; M.アウレリウス期)
[pa]ntomimus ; [Aug]ustalium q(uin)q(uennalis) ; [hiero]nica temporis sui
primus
黙劇役者 ; 五年毎のアウグスターレース ; 彼の時代の第一位の神前競技勝利者
- [12] CIL XIV, 4254 (Tibur, ラティウム ; 199年)
pantomimus ; hieronica ter te[m]poris sui primus ; vittatus Augustorum ;
sacerdos Apollinis ; Herculanus Augustalis S.P.Q.T ; ornamentis decurionatus
honoratus
黙劇役者 ; 彼の時代の第一位の神前競技勝利者三度 ; 皇帝の宗教儀礼を行う者 ;
アポロ神祭司 ; ヘラクレス信仰と結びついたアウグスターレース ; 都市参事会員の飾りに
よって名誉づけられた者
- [11] CIL XIV, 2977 (Praeneste, ラティウム ; 198-211年)
pantomimus sui temporis primus ; hieronica solo in urbe coronato diapanton ab
impetatoribus dominis nostris Severo et Antonino Augustorum ; parasitus
Apollonis ; archierus synod(i) ; sevir Au[g(ustalis)]
彼の時代の第一位の黙劇役者 ; ローマにおいてセウェルス帝およびアントニヌス帝により
顕著に飾られた神前競技勝利者一度 ; アポロ神に捧げられた黙劇団団員 ; 詳細不明の宗教

団团长⁽²³⁾ ; アウグスターレース

アウグスターレースは大抵の場合単独で現れることが多いが、しかし、いくつかの場合他の役職を兼ねていることがある。ここでは、ユリウス・クラウディウス朝の末期からその傾向が見られる。そのなかで、とりわけ2世紀後半のマルクス・アウレリウス期から、セウェルス朝期にかけての碑文には、イタリアの中心部ラティウムにおいて、アウグスターレースとしての皇帝解放奴隷のなかに黙劇役者が見られ、更に碑文におけるその順位では、黙劇役者がアウグスターレースより上位にきている。これはアウグスターレースの地位がこの時代において帝国中心部で、低下していったことを示すものであるように思われる⁽²⁴⁾。

(三)

これまで、関係碑文を手がかりにアウグスターレースとしての皇帝解放奴隷のあり方を検討してきたわけであるが、大略以下のようなことが明らかになった。

アウグスターレースとしての皇帝解放奴隷は、時代的には早くもユリウス・クラウディウス朝期の最初期（アウグストゥス期）に、イタリアの中心部ラティウムにおいて現れ、皇帝礼拝を推進する役割を担った。その後、フラウィウス朝期においては皇帝解放奴隷に代わって騎士層が帝国行政の中枢部に台頭する結果⁽²⁵⁾、この現象は一時的に停滞する。しかし、一世紀末からの五賢帝時代になると、再び進展をみせ、とりわけ皇帝礼拝がローマ支配にとって有効な意味をもった帝国辺境の属州においては、アウグスターレースとしての皇帝解放奴隷の存在がなおみとめられた。

しかしそれに対して二世紀末から三世紀初頭のセウェルス朝期においては、帝国中心部での皇帝礼拝の担い手としてのアウグスターレースの地位は相対的に低下するようになる。これはアウグスターレースであるということが皇帝解放奴隷にとって、それが帝政初期にもった重要性と比較して、さほど大きな意味を持たなくなる。というのも皇帝とのつながりのなかで、アウグスターレースであるよりも、もっと別なあり方のほうが、例えばわれわれがこれまでみてきたところからいえば、黙劇役者であるというようなことが、むしろ重要な意味を持ってくる。かつて皇帝の奴隷であった黙劇役者なるものが、皇帝との人間的近さ故にかえて、大きな意味をもってくる。これはアウグスターレースの皇帝礼拝に果たす役割が大きく変化した現れではないかと思われる。すなわち帝国辺境部とは対照的に帝国中心部においてはこの時期、従来のアウグスターレースによる皇帝礼拝の祭儀は事実上その役割を終えつつあることを表すものであるのかもしれない。

註

(1) 最近の論考として以下を参照。島田誠「皇帝礼拝と解放奴隷」『岩波講座世界歴史』5（1998年）245－265頁。

(2) Boulvert, G., *Domestique et fonctionnaire sous le Haut-Empire romain: la Condition de l’Affranchi et de l’Esclave du Prince*, Paris, 1974, p. 226－228.

(3) Cf. Chantraine, H., *Freigelassene und Sklaven im Dienst der römischen Kaiser ; Studien zu ihrer Nomenkatur*, Wiesbaden, 1967 ; Weaver, P.R.C., *Familia Caesaris: A Social Study of the Emperor’s Freedmen and Slaves*, Cambridge, 1972 ; Boulvert, G., *op. cit.*

- (4) ブールヴェールは以下の碑文 (AE 1888, 126) も挙げているが、R.デュトワ (Duthoy) はアウグスターレースに関係している碑文とはみなしていないので、ここでは検討の対象とはしない。AE 1888, 126 (Puteoli ; ウェルスあるいはコモドゥス期) :L. Aurelio Aug. lib. Pyladi/pantomimo temporis sui primo, / hieronicae coronato IIII, patrono / parasitorum Apollinis, sacerdoti/ synhodi,honorato Puteolis d. d. /ornamentis decurionalib. et/duumviralib., auguri, ob amorem/erga patriam et eximiam liber/litatem in edendo muner. gladi/atorum venatione passiva ex in/dulgentia sacratissimi princip./<Commodi Pii Felicis Aug.>, / centuria Cornelia. Cf. Duthoy R., Recherches sur la répartition géographique et chronologique des termes sevir Augustalis, Augustalis et sevir dans l'Empire romain, dans *Epigraphische Studien*, Bd.11 (1976) p.143-214, 特にp.152.
- (5) CIL III,1792: Mercurio Aug(usto) sacr(um)/M. Ulpus Aug(usti) lib(ertus) Nedymus/C. Pollius Albanus/T. Vetulenus T(iti) l(ibertus) Abascantus/Q. Cornelius Augustalis/L. Volceius Cerdo (sex)viri/m(agistri) M(ercuriales)/ob hon(orem).
- (6) CIL III, 2093: T. Flavio Aug(usti) l(iberto) Basso August(alis)/Claudia Ti(beri) [f(ilia)] Thetis marit(o) b(ene) m(erenti)/et T. Flavius Felix pro parte quint(o)/patrono bono/h. m. h. n. s. in f(ronte) p. [LX]/in agr(o) p. XXV.
- (7) CIL III, 8263: D(is) m(anibus)/P(ublio) Aelio Aug(usti) lib(erto)/Aprioni Aug(ustalis) col(oniae)/Rat(iariae) h(ic) s(itus) e(st) vix(it) an(nis) /LXV/Consia Valeria.
- (8) CIL V, 987: T. F[l]a[v]ius Aug. liber. Crescens/(se)vir v(ivus) fecit sibi et/Iuliae Nomadi coniugi carissimae/Cassid(i)ae Marcellae filiae/Flav[i]ae P[ro]cilla filiae.
- (9) CIL VI, 29681: Sestuleio I/Capito hunc VI vi[ri et]/honore functi rogarunt ut et/honore fungeretur./C. Iulius divi Augusti l. Sosthenes.....
- (10) CIL VI, 29736: D(is) m(anibus) s(acrum)/M. Ulpus Augg. lib. Grania/nus et Casperia Rufina fece/runt sibi libertis libertabus/que qui vixer(unt) inter se ann(is)/XX sine ulla vile hoc amplius nu/meraverunt arcae sevir(orum) Augustaliu(m)/(sestertii) 2000 m(ilia) n(ummum) ut diebus natalis idib(us)/Iunis Rufines viri v. et mulieres eorum /et Graniani kal(endae) Iul(iae) eadem natali ad/exemplum semni.
- (11) CIL IX, 344 = ILS, 5188:[L. A]elio Aug(usti) lib(erto)/[Aur]elio Apolausto [pa]ntomimo/[Aug]ustalium q(uin)q(uennali)/[hiero]nice temporis/sui primo/[col]onia Aurelia/[Au]g(usta) Pia Canusium/d(ecreto) d(ecrionum).
- (12) CIL XI, 5756: Heraclida Cassian(us)/Caesaris lib(ertus)/librarius sexvir.
- (13) CIL XI, 3200 = ILS, 89: Imp(eratori) Caesari divi f(ilio)/Augusto/pontif(ici) maxim(o) co(n)s(uli) XI/tribunic(iae) potestat(i) XI/magistri augustal(es) prim(i)/Philippus Augusti libert(us)/M. Aebutius Secundus/M. Gallius Anchia(l)us/P. Fidustius Antigonus
- (14) CIL XI 3805 = ILS 6579: Cetumviri municipii Augusti Veientis/Romae in aedem Veneris Genetricis cum convenis/sent, placuit universis, dum decretum conscriberetur,/interim ex auctoritate omnium permitti/C. Iulio divi Augusti l.

Geloti, qui omni tempore/municip. Veios non solum consilio et gratia adiuverit/sed etiam impensis suis et per filium suum celebrari/voluerit, honorem ei iustissimum decerni, ut/Augustalium numero habeatur aequae ac si eo/honore usus sit, liceatque ei omnibus spectaculis/municipio nostro besellio proprio inter August/tales considerare cenisque omnibus publicis/inter cetum viros interesse, itemque placere/ne quod ab eo liberisque eius vectigal municipii/Augusti Veientis exigatur./Adfuerunt/C. Scaevius Curiatius,/...../Actum/Gaetulico et Calvisio Sabino cos.

- (15) CIL XIV, 2977=ILS, 5194: M. Aurelius Augg. lib./Agilio Septentrioni/pantomimo sui temporis/primo, hieronicae solo in urbe coronato/diapanton ab/ impp. dominis nostris/Severo et Antonino Augg./parasito Apollonis,/archieri synod, IIIIIvir Au[g]./Huic respublica Praenestin./ob insignem amorem eius erga /cives patriamque/postulatu populi statuam/posuit, d. d.
- (16) CIL XIV, 4254 = ILS 5191: curante/Musonio Iulio/Antullo patrono/municipii/dedicata V[III]I id. Iu./Anullino II et Frontone cos. //
 // Aug. edente/L. Aur. Augg. lib. Apolau[sto]/Memphio/magistro/L. Aurelio Augg.lib. Apolausto/Memphio/pantomimo hi/eronicae ter te[m]/poris sui primo vittato Augg./sacerdoti Apolli/nis Herculano/Augustali/S.P.Q.T./item/ornamentis decurionatus honorato.
- (17) AE 1902, 78 = EE IX, 606: Iun[oni R]eg[inae]/Ti(tus) Claudius Aug(usti) l(ibertus)/ Capito Diodorian(us)/Claudia Emma/ Claudius Atticus/Claudius Felix/Seviri Aug(ustales)/ [dono] ded(erunt).
- (18) AE 1914, 261 = ILS, 9505: l(ibens) v(otum) s(olverunt)/Ti(berius) Claudius/Epinius/proc(urator) et prae/gustator et/a secretis Aug(usti)/sevir Aug(ustalis) c(oloniae) C(aesareae)/d(ecreto) d(ecrionum) ex mandatu/Caristanior(um)/Droserae et/ Mileti parenti/um suorum/posuit.
- (19) AE 1979, 386:[.../...]s no[.../...]urae [.../...] tatis/[...]ctus/[.../...]annus [.../Aug(usti) lib(ertus) o[b/hon]orem II[III]virat]us temp(lum) r[ef]ecit[.]].
- (20) AE 1988, 176: Aug(usti) lib(ertus)/P(ublius) Aelius Agathemer/fecit sibi et Aeliae Hel/pidi libertae suae et/libertis libertabus/posterisque eorum, sevir aug(ustalis) idem q(uin)q(uennalis)./In front(e) p(edes) XXIII, in agr(o) p(edes) XL.
- (21) 西部属州の辺境における皇帝礼拝のあり方に関しては、ガリア三州（内陸部）の事例として以下を参照。Chastagnol, A., L'expression épigraphique du culte impérial dans les provinces Gauloises, dans *REA*, T. 97, 1995, nos 3-4, p.593-614.
- (22) アウグスターレースの様々な形態に関しては以下を参照。Cf. Duthoy, R., Les Augustales, dans *ANRW* II-16(1978)p.1254-1309, 特にp.1287-1289.
- (23) Cf. ILS 5186 n.3.
- (24) このことについては稿を改めて考察したい。
- (25) Cf. Bleicken, J., *Verfassungs- und Sozialgeschichte des römischen Kaiserreiches* I, Paderborn, 1978, SS.62-63.